

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170202400		
法人名	株式会社 矢嶋商店		
事業所名	グループホームあすか東川口		
所在地	埼玉県川口市戸塚1-13-15		
自己評価作成日	平成 31 年 3 月 15 日	評価結果市町村受理日	令和元年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	平成31年 3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1日の大まかな流れはあるが、毎日その日の様子や状況に応じて、やりたい事や活動をご入居者の要望を元に対応している。やりたい事がなかったり、億劫になったりするご入居者に関しては、スタッフから声掛けし、散歩やレク等に誘い楽しみに繋げている。またゆっくり休んだり、お話をしたりする時間も大切にしている。食事に関しては、昼、夕は手作りな為、食べたいものを考えたり、出来る事を見つけたら、ご自宅での生活と同様に行えるようにしている。食事作りや片付けをする事により、楽しみややりがい、手先を使う等の生活リハビリになる事を重要視している。また、年に1回3事業所合同で一泊旅行も開催し、旅行に行く機会を作り、入居者、家族、スタッフの関係を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が、入居後も自宅での暮らしが続けられるように、包丁を使い食材を切る、洗濯をたたむ等の「生活者」としての役割を持ってもらいようにし、家族に趣味の材料や好きな本を持って来てもらう等の取り組みをしている。又、職員は常日頃から生活の中で利用者の出来る事を探し、試してみる事で出来る事を増やし、日常的に立って調理をしたり、移動に階段を使う等をする事が生活リハビリとなり、利用者の機能維持につながっている。利用者の機能低下を防ごうと、歩行低下の見られる利用者にはサイクルマシーンを使って貰った所、階段を歩く事が出来るようになったケースもある。家族に行事等に参加してもらう事で、家族同士が顔見知りになり、会話が多くなってきた。様々な機会を通じて、外食や花見の場所や食事内容等について意見を出してもらえ、利用者の生活に反映している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念にそった事業目標を掲げ、ユニット会議での確認や、月間目標に取り入れ、実践に繋げている。	事業目標を具体的におこなう為の「行動目標」を、職員の意見を取れ入れて作成している。年度初めの会議で伝え、その後随時の確認や定期的な振り返りをする事で、職員は目標を基に利用者の支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学校の職業体験、ボランティアの受入れ、若者自立支援センターの見学等を受け入れをしている。様々な年齢の方をご入居者が関われる機会になっている。	近域の人達と日々の散歩時の声かけや買い物、オレンジカフェへの参加を通して関わりがある。歌や傾聴等のボランティアが来所し、一緒に歌を歌ったり、中学生と折り紙をする事が、利用者の喜びになっている。	オレンジカフェの参加を通して、近域の人達とのかかわりが出来てきた。近隣の人達に来所してもらう機会を増やす事で、今まで以上に事業所への理解や交流が深まる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時の見学者対応し、ご利用者、ご家族の相談援助を行っている。入居が難しい場面では、近隣のグループホームをご紹介している。職業体験や見学、ボランティアについても、認知症についてのお話し、知って頂ける機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、事業所の報告をし、ご家族のご意見を伺える様にしている。またご家族同士の意見交換もできる様になってきている。参加できなかったご家族には、レジュメと会議録を送付している。	家族が参加しやすいように、曜日の配慮や行事に合わせて開催をしている。事業所の報告に対して、イベントや職員の雇用等について意見があり、利用者の転倒予防のアイデアを参考に、環境整備に役立てた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会では、地域包括のスタッフが参加しており、オレンジカフェ、認知症サポート養成講座のお知らせ、空き状況等の情報交換している。	事業所の実情については、地域包括支援センター職員に報告をしている。市役所には郵送の他、管理者が出向き、書類提出や事故報告、入居希望者についての相談等を担当者とおこない、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3事業所合同の会議にて、身体拘束の確認、話し合いをしており、その内容をユニット会議にて伝えている。玄関の施錠は、行っているが、訴えがあった際は、外出の支援ができる様に、業務の調整に努めている。	ユニット会議で、何が拘束に当たるのかの確認や具体例を用いた意見交換をしている。家族には、生活上のリスクや拘束の影響を説明して理解を得ている。落ち着いた利用者に対して、職員が一緒に行動をする等して不安を軽減する為の工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待チェックシートを用いて、スタッフ自身のケアを振り返れる様にしている。声掛けから気を付けられる様に、日々、気になるところがあった際は、注意できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家庭環境や経済状況を把握し、必要な入居者には後見人制度を利用している。生活保護を受給しているご入居者は、担当のケースワーカーとも密に連絡を取り、情報共有をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に各種契約事項の説明を行い、家族から疑問や不安等があれば、その都度説明を行っている。不明点や心配事については、随時相談できる旨を伝えて、理解や納得して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、事業所の報告をし、ご家族のご意見を伺える様にしている。家族が面会に来た際には、最近の状況等を伝え、家族からも心配事や意見を聞くように努めている。家族からの要望等をスタッフにも伝え、改善を行っている。	運営推進会議や面会時に意見を聞く機会を設けている。職員は家族に安心感を持ってもらい、一方的に話さないように心がけている。一泊旅行の内容や、花見、外食レクの場所について意見をもらい、反映をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や人事考課の際に、普段からスタッフの意見を聞く機会を設けている。3事業所で行う会議の際に、役職者や代表者も参加し、全体を通した話し合いをしている。	会議や人事考査以外に、夕礼、朝礼時や業務中、管理者から個別に声を掛けて意見を聞いている。イベント時の人員や業務の調整、利用者の機能維持の為のマシンの購入等の意見があり、その都度対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の面接や、その都度、スタッフから話を聞く機会を設け、スタッフの想いや目標に向けて考え、賞与に反映する等している。介護休業の制度も利用し、仕事を継続できる様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人のOJT制度を利用。内部で勉強会、外部で事例検討会等の参加を促し、ケアの質の向上や知識理解に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	戸塚連絡会、往診医のつながりのグループホームでの事例検討会に参加し、意見交換をしたり、同じ悩みを話したり、交流の場になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人とお話をして、楽しみや不安等をお聞きし、介護計画に組み入れている。また新しい環境で不安が強くなる事も考え、ご本人の様子を見ながら、スタッフから声掛けやできる事を提供していき、安心できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、実地調査、契約時に、お話を伺い、不安や要望についても、介護計画に組み入れている。入居後の様子をお伝えしたり、改めてご要望がないかを確認したりして、ご家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を決める前に見学に来て頂き、また実地調査に伺う事で、入居者の状況を確認し、本人と家族の意向を聞き、状態に応じた介護計画を作成している。入居後の生活から必要なケアを話し合い、随時実施をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者と、調理、掃除を一緒に行う事で、介護する側、される側ではなく、生活を助け合っていく関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者の生活歴や趣味嗜好をご家族にも、聞きながら、ケアに取り入れている。またあすかでの生活の様子を伝えてながら、ご本人に必要な事を、ご家族と一緒に考えられる様に、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や手紙、電話等は、基本的に自由にできる様にしている。行ける範囲であれば、行きつけの店に夕食の計画を立てる事や、買物に行く事もできる。	手紙の返信に、利用者と共にレターセットの購入や代筆等の支援をしている。入居前に利用していた飲食店や、趣味の発表会にかけて喜ばれており、入居後は、ボランティアや良く行く店の店員と馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話や気が合う方、出来る事が合う方等、ご入居者の様子に合わせて、食席を変えたり、家事やレクに促したりし、ご入居者同士と一緒に過ごせる様に工夫している。話がかみ合わずトラブルにならない様にスタッフが様子を見ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて、ご入居者の情報提供を行い、ご家族にも、退去後も相談ができる旨を伝えている。面会が可能な場合は、様子を伺いに行く事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の更新の際の聞き取りで、ご希望を聞いたたり、普段の生活の会話から、思いを汲み取っている。困難な場合は、現在必要な事と以前好きだった事、話していた事を元に、思いを検討している。	職員との日頃の会話や居室担当者が介護計画更新時の聞き取りをし、記録する事で把握に努めている。困難な場合は、以前の介護計画や行動、家族からの話、利用者の性格等を考慮して意向を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、入居前に利用していたサービス、それぞれから、お話を伺い、これまでの生活の様子を把握に努めている。ご本人からは、あすかの生活の中からも気づきがあり、情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を記録に残し、その日の過ごし方や心身状態等、全スタッフが把握できる様に努めている。また、日々の小さな変化等も気付いた事は細かく記すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議やモニタリングを毎月行い、ご本人の状態の確認、ケアの再確認を行っている。往診や訪看時にも相談できる様にし、ご家族にも相談や要望を聞くようにしている。	定期的な見直しは1年毎だが、入退院後や身体状態の変化に応じて随時おこなっている。家族や医療職、職員の意見を取り入れ、介護内容の他、利用者の趣味や好きな事を取れ入れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々介護計画に沿ったケアができていないかケースに記録をし、変化や特変があった際は、細かく書いている。対応が変わった際は、申し送りに記載し、情報を共有。状況が変わった時や見直しの時期には、介護計画の作成をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者の状態に合わせて、業務の流れを変更したり、スタッフの勤務や配置を工夫したりしている。実践例はないが、個別でのボランティアの活用や、認知症デイケアの活用も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニや公園まで散歩に行ったり、車にてスーパーまで買い物に行ったり、楽しみに繋がっている。ご入居者によってはお一人で買い物に行ける様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞き、月二回の内科往診、毎週の歯科往診にて対応している。かかりつけ医を継続する場合や外来受診がある場合は、往診医と訪問看護、スタッフと情報共有をしている。往診医、訪看は24時間の電話対応ができる。	訪問診療前に、日頃の様子を往診医、看護師等にFAXで送り、診察結果は、電話や毎月の便りで家族に伝えている。家族が通院対応する場合も様子を伝えており、情報を共有することで利用者の健康を支えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護、往診同行の際に、情報共有と相談ができる関係を作っている。また体調不良時や緊急時には、電話、駆け付け等の対応ができる様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医による紹介状の作成や、スタッフによるサマリーの作成を行い、入院時の情報提供に努めている。入院時も、面会時お話を聞いたり、退院時のカンファレンスの場を設けて頂いたりし、退院後に、適切なケアが受けられる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の日々の変化や退院後の状態等から、重度化が予測される場合には、早い段階から家族に伝え、相談をしている。本人や他入居者の状態、スタッフの能力等を把握しながら、どこまでのケアができるのかを判断し、家族にも説明をしている。	医師が判断し、家族に説明をする。事業所は、出来る事と出来ない事を伝え、家族の意思を確認しながら対応している。他施設に移る場合は、相談や情報提供等のサポートをおこなう。職員は、会議や申し送り等で指針や対応の共有をおこない、支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の研修に参加したり、マニュアルを元に伝えている。ユニット会議でシュミレーションをしたり、テスト形式にて事故の対応を確認したりしている。急変や事故等についても、他事業所の各スタッフに伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中想定と夜間想定の方針を訓練を行い、参加できないスタッフにも計画書の確認をしている。その年や行っている訓練によって、水害や地震等も変えている。	消防署立ち会いで訓練を実施後、受けたアドバイスを取り入れて、次回に繋げている。備蓄品の用意や職員が具体的に動けるように避難時のマニュアルを作成しており、地域の避難場所に散歩で行き確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、丁寧な言葉遣いをする事を意識している。また排泄やケアの声掛けの際には、周囲にも気を付け、言葉を選ぶようにしている。	毎年「サービス向上チェックリスト」を実施し、排泄、入浴時のプライバシーの保護について職員が振り返るきっかけとなっている。尊厳について、入職時や会議で伝え、丁寧な声かけや申し送り時に配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者からの希望や思いがあれば、それに添える様に出来る限り努めている。食べたいもの、やりたい事等を選ぶような声掛けを工夫している。意思表示が難しかったり、苦手な方に関しては、普段の会話から汲み取る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、その日の入居者の希望や状況によって、変えている。食事のメニューや日課、外出先等は、ご入居者の要望を聞きながら、決める様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出の際には、化粧をしたり、よそ行きを着たり、各入居者に合わせたおしゃれをしている。また、日々の整容については入居者に合わせて声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者と一緒に調理から片付けまでを行い、準備から楽しめる様にしている。入居の要望をきき、献立を決め、買い物に行き、楽しみに繋げている。イベント食や季節のものを取り入れる事も行っている。	職員は利用者の出来る事を見つけ、楽しみや「やりがい」になるように支援している。利用者の希望を生かして外食や出前を取っている。敷地内の畑で収穫したものを食材として活用しており、季節を感じる事が出来る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量や摂取する項目がを日誌に記入し、全スタッフで把握している。必要に応じて、水分量や食事量の表を活用したり、不足している入居者に関しては、食事以外の時間でも本人の好きな物を摂取を促したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に毎食後、口腔ケアを行っている。それぞれの状態に合わせ、声掛けや磨き直し、義歯の預かり等をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、排泄のパターンや排便コントロールを行っている。自力でのトイレが難しい入居者に関しては、パターンに合わせトイレ誘導を行っている。極力、トイレで排泄できる様に心がけている。	利用者のサインを見逃さず、トイレでの排泄を促し、自分で出来る事は自分できるように声かけをして自立に向けた取り組みをしている。職員は、パッドの種類や対応を会議等で話し合い、利用者に沿った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品やオリゴ糖、食物繊維等の摂取を行い、自然排便を心がけている。トイレ時に、腹圧を掛ける様に声掛けをしたり、体操や歩く事で促したりしている。それでも便秘気味の際は、往診医に相談し、下剤・座薬の使用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかな流れはあるが、入浴日や時間は調整できる様にし、ご入居者が入りたいときに出来る限り入れる様に支援している。入浴が億劫なご入居者に関しては、定期的に声掛け、トイレ後や外出後等に入りたい気分になる様に工夫している。	職員間で連携を取り、利用者の希望に沿った入浴が出来る。羞恥心や恐怖心のある場合は、理由を聞き、それに沿って同性介助等の対応をしている。菖蒲湯やゆず湯をおこない入浴が楽しくなる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間は強制せず、入眠時間や生活習慣に合わせて、声掛けをしている。日中もご入居者の生活ペースに合わせて、好きな時に居室に戻り、休んで頂いたり、ソファーでゆっくりできる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに、お薬情報のとじており、いつでも確認できる状況を作っている。また、処方変更があった際には、副作用や注意点等、往診記録や口頭で引き継ぎを行い、周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが出来る事や好きな事が異なる為、その方に合わせた手伝いやレクを行っている。読書が好きな方は、本を用意したり、コーヒーが好きな方は買いに行った、編み物等の趣味を継続できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物の訴えがあった際には、スタッフと一緒にできる限り、その日に買物に行けるよう環境を整えている。個別や少人数での外出を行ったり、ご家族と相談をして、ひとりでの買い物練習をしたりしている。	利用者の体調に応じた散歩やテラスの日向ぼっこ、玄関でおやつを食べる事は、気分転換になっている。花見や近隣商業施設のイベント、家族を呼んでのユニット外食及び、買い物に個別で出かけている。家族と外出した後は、とても良い表情で戻ってくる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能なご入居者に関しては、少額のお金を持ち、買物する。金銭管理が難しい入居者に関しては、スタッフが一緒に買物に行き、本人の欲しいものを選んで頂き購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には、いつでも電話できる様にしている。家族だけでなく、友人と手紙のやりとりや電話をしている入居者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度設定やテレビの音量等、ご入居者が不快な気分にならない様に設定し、心地よい環境で生活できる様に配慮している。また、写真を飾ったり、毎月のカレンダーや入居者の作品を飾る事で、柔らかい雰囲気の中で生活できる様に努めている。	各フロアで調理をおこなうので、匂いや音を感じられる。手の届く所に新聞や本を置き、冷蔵庫の飲み物を自由に飲める等、自分のペースで過ごすことができる。利用者と装飾を作り、窓を開けて外気に触れることで、季節が感じられるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にも、全体が見渡せる席と、離れた席、日の当たる席、ソファ等、ご入居者同士好きな場所で自由な会話ができる様に配慮している。ご入居者の状況によっては、ホールや別ユニットへ移動する事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真等、今まで使用してきたものを居室に置く事で、入居時の不安の軽減を図ると共に、ご入居者に合わせた、家具の配置やベッドの位置にして、危険がない様にしている。	思い出の物を飾り、仏壇を持ち込んだ利用者は、「家族が近くにいると思うと安心する」と話して、職員も手伝いながら水を供えている。居室では、趣味の手芸やラジカセで音楽を聴いて、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には、分かりやすい様に表札等をつけている。廊下や共有部分にはモニターが付いているが、ご入居者に合わせ、介入が必要かどうか確でき、過剰な介助を伏せぐ事が出来ている。		